

問一 次の各問に答えなさい。

問一 次の①～⑩の漢字の読みをひらがなで書きなさい。また、⑪～⑳のカタカナ・ひらがなは漢字に直しなさい。ただし、送り仮名が必要な漢字は送り仮名も正しく書くこと。

①専ら読書をする。 ②すねを打撲する。 ③テレビが壊れる。 ④恭順な態度。 ⑤自然の驚異。

⑥妹はキゲンが悪い。 ⑦容疑者がキリされる。 ⑧すみやかに退出する。

⑨祖父はとてもガレコだ。 ⑩祖父は途中でだまる。

⑪コウカ線走る電車。 ⑫シヨウシヨウ気流。

⑬数字を丸でかこむ。 ⑭体がヒロウする。

⑮妹はキゲンが悪い。 ⑯日本をジユウタツする。

⑰かが人のカレヒヨウ。 ⑱リンゴがいたむ。

⑲シユウロク作品を選ぶ。 ⑳仏前に花をそなえる。

㉑ボウセキ工場働く。

問二 次の「漢字の組み立てと部首」についての問に答えなさい。

(一) 次の①～④の各組の漢字に共通する部首名を例にならって答えなさい。

例 説・調・論 ↓ ごんべん

①判・利・刻 ②今・会・余 ③斤・店・庫 ④回・固・園

(二) 次の①～④の漢字の部分に、共通する部首を付けて熟語を完成させなさい。

例 倉 干 ↓ 創刊

①失 広 ②祭 良 ③田 相 ④方 青

問三 次の文法についての問に答えなさい。

(一) 次の言葉の単位を大きい順に並び替えて記号で答えなさい。

ア 文節 イ 段落 ウ 文章 エ 単語 オ 文

(二) 次の文章には句点がついていません。必要なところに句点を付け、文の数を漢数字で答えなさい。

わたしの弟はいたずらが好きですこの前も電柱の陰にかくれていて、後ろからわたしをおどかしてきま
したあまりにもとつせんで、わたしはびくつきりしてしまいましたそんな弟でも、わたしががぜを引いたり
すると、ヒタミンくがたくさん入った百パーセントのオレシジューズを持ってきてくれたりするのです

(3) 次の各文の文節数を漢数字で答えなさい。

①夕食が終わったのは七時半だ。
②夜の公園にはだれもいなかった。
③公園から明るく元氣そうな声が聞こえた。
④全体がひとまとまりの文章になるようにまとめた。

(4) 次の各文の単語数を漢数字で答えなさい。

①あの白ひきはバニです。
②美しい音楽を聞くことがなごむ。
③こども部屋でやわらかな光が広がった。
④スズメがどなりけりの家から飛んできた。

□ 次の詩を読んで後の問に答えなさい。

谷川俊太郎

カムチャツカの若者が
きりんの夢を見ているとき
メキシコの娘は
朝もやの中でバスを待つている
① ニューヨークの少女が
ほほえみながら寝がえりをうつとき
ローアの少年は
柱頭を染める朝陽にウインクする
この地球では
いつもどこかで朝がはじまっている

② ぼくらは朝をリレーするのだ

経度から経度へと

そうしていわば交替で地球を守る

③ ねむる前のひととき耳をすますと

どこか遠くで目覚時計のベルが鳴ってる

それはあなたの送った朝を

誰かが④ しっかりと受けとめた証拠なのだ

問一 () に入るこの詩の題名を書きなさい。

問二 この詩は二つのまとまりに分かれている。このまとまりを何というか。漢字一字で答えなさい。

問三 — 線部① 「ニューヨークの少女」と対比しているものを、六字で抜き出しなさい。

問四 — 線部② 「ぼくらは朝をリレーするのだ」経度から経度へと」で使われている表現技法を答えなさい。

問五 — 線部③ 「眠る前のひととき耳をすますと」どこか遠くで目覚時計のベルが鳴ってる」とはどういうこととを表しているか。詩の中の言葉を書きなさい。

問六 — 線部④ 「しっかりと受けとめた」とはどんな状況か。次から一つ選びなさい。

ア 誰かが起きた状況

イ 誰かが眠った状況

ウ 誰かが夢を見た状況

エ 誰かが戦った状況

問七 この詩で作者が伝えたかったこととして最も適切なものを、次から一つ選びなさい。

ア 地球の未来に対する不安

イ 地球の人と人とのつながり

ウ 世界の人々の多様さ

エ 昨日までの朝の景色

初めてシンタに会ったときは驚いた。中学校の入学式、そこに「僕がいる。」と思った。身長も同じくらい、くせ毛の生え方も似ているし、二重の目のほばも、鼻筋の長さも。同じ制服を着ているから、なおさら僕にそっくりだった。僕たちはすぐに仲よくなつた。まるで磁石が引き合うみたいに。話をしてみると、好きなものも嫌いなものも同じだった。好きな食べ物（つゆがたつぷりの牛丼）、好きな飲み物（炭酸の強いソーダ）、姉ちゃんがいるのも同じだし、蛇口から直接水を飲むのが好きで、靴下はうっとうしい。体育が好きで、音楽が苦手。誕生日は違つたし、名字も名前も違つけど（それでも、僕はシンタだ、十分似ている）、僕とシンタはまるで双子だった。みんなは、僕たちのことをまとめて「シンシエン」とよんだ。そうよばれると僕たちは同時に振り返つた。いつもいっしょだった。シンタと話していると、話したいことがどんどんあふれてきた。シンタもそう言ってくれた。「シンタとなら、いくらでも話していただけるよ。」僕たちは自分自身と話しているようなものだった。笑うところも、怒るところも同じだった。

ある日、国語の授業で小説を読んだ。

短いお話で、全然明るくなくて、それどころか暗くて、悲しい話だったけど、僕はすごく好きだと思つた。でも、どうして好きなのか全然説明できなかった。だから、①シンタに話そうと思つた。僕が好きなんだから、シンタも絶対に好きだろう。そしてシンタなら、その理由を教えてくれるにちがいない。

休み時間、僕はいつものようにシンタの席へ行つた。待ち切れなかつた。わくわくしながら小説の話を②切りだすと、シンタは顔をしかめた。

「あれ、嫌いだ。」

③頭をがつんと殴られたような気がした。

「暗くてさ。何が書きたいんだろ？」

僕は思わず、シンタといっしょになつた。

「そうだよな。④僕も嫌い。」

その日は、ずっと苦しかった。

僕が好きなものを、シンタが嫌いと言つたことが悲しかった。「僕は好きだ。」と言えなかつたことが悔しかった。でも、シンタと違う自分は嫌だった。僕たちは好きなものや嫌いなものが同じだから「シンシエン」コンビなんだ。違うところがあれば、僕らはきつといっしょにいられなくなる。それは嫌だった。絶対に嫌だった。それから僕は、シンタと話すときに迷うようになった。

休み時間も放課後も、相変わらずシンタといっしょにいたけど、前みたいに話せなくなつた。

僕はあたりまえのことばかりを話した。「雨が降っているね。」とか、「あしたは一時間目が体育だね。」とか。シンタもなんだかおかしかった。僕と同じように口数が少なくなつて、僕みたいにあたりまえのことが話さなかつた。とうとう僕は黙つてしまった。黙つてしまつて後はただ気まずくて、だから僕たちはだんだん離れていった。

クラスのみんなは「シンシエン」コンビがいっしょにいないことを心配してくれた。でも、僕たちは自分たちになにがあつたのか、みんなに説明することができなかった。

ある日、クラスメイトが僕に、

「シンタとけんかしたの。」

そうきいてきた。僕はそれときこつた。ああ、けんかできたなら楽だろうな。何もしてはにないのに、こんな

ふんに気まずくなるなんて。僕は自分が情けなかった。そうだ、どうせなら、ちゃんとけんかしよう。勇気がいることだったけど、こっぴどくして、僕は辛口で話しかけた。

「シンタ。」

シンタは僕を見た。ちよつと怖がついてるみたいに見えた。

「僕、あの小説が好きなんだ。」

「え？」

「あの、国話の小説。」

覚えていないかもしれない。急にこんなことを言うのは変だ。でも、そこから話をするしかなかった。僕は必

死だった。だから、

「覚えてるよ。」

シンタがそう言ってくれたときは驚いた。それから、こう続けたときも。

「僕が嫌いって言ったとき、シンタが傷ついたのでわかった。」

⑤ 気づいていんだ。謝るうとした僕より先に、シンタが「ごめん。」と言った。

「僕たち、あれからちよつとおかしいよな。ちよつとついでに、だい。」

「うん。なんか。」

「つまらないことばかり話してき。」

「本当にそうだね。」

シンタと僕が久しぶりに話をしているのを、クラスメイトたちが見ているのがわかった。

でも、⑥ 僕は気にしなかった。

「僕、シンタと違うところを発見するのが怖かったんだ。」

⑦ シンタも、気にしていなかった。

⑧ 僕も！

思ったより、大きな声が出たのだらう。シンタは照れくさそうに笑った。

「まだシンタを傷つけるのも怖かったし。」

シンタのその笑顔が、僕は好きだった。大好きだった。

「傷つかないよ。」

「え？」

「僕の□なものをシンタが嫌いでも、僕は傷つかないよ。あ、うん、傷つくかもしれないけど、でも、じゃあ、⑨ だからこそ話そうよ。どうして好きなのか、どうして嫌なのか。」

シンタはまっすぐ僕を見た。僕もシンタをまっすぐに見た。僕たちはそっくりだった。

「うん。話そう。」

そっくりだけど、全然違う人間なのだった。

「話そう。たくさん。」

僕たちはそれから、前にもましておしゃべりになった。

問一 この文章の主人公はだれか答えなさい。

問二 —線部①「シンタに話そうと思った」のはなぜか。次から二つ選びなさい。

ア シンタもその小説が好きなのは、二人で話して共感したから。

イ シンタなら、「僕が」その小説を好きな理由がわかるはずだと思っただから。

ウ シンタがなぜこの小説を好きなのか、理由を教えてもらいたかったから。

エ 暗くて悲しい小説を読んで、シンタが落ち込んでいるはずだと思っただから。

オ シンタも「僕」と同じように、暗くて悲しい話がいっつも好きだから。

問三 —線部②「切ります」の意味を次から選びなさい。

ア 運び出す イ 告げる ウ 言い出す エ 打ち明ける

問四 —線部③「頭をがっんと殴られたような気がした。」とあるが、シンタがシメンタにどのような返事を期

待していたからか。「僕もあれ」に続けて三字書きなさい。(句読点を含まない)

問五 —線部④「僕も嫌い」とあるが、これはシメンタのどういう思いからか。次の文にあてはまる言葉を文

中からそれぞれ三字以内でぬき出しなさい。(句読点を含まない)

シメンタと (A) ことを言つて (B) のままでいたい。

問六 —線部⑤「気づいていたんだ」とあるが、シメンタはどことに気づいていたのか簡潔に答えなさい。

問七 —線部⑥「僕は気にしなかった」、—線部⑦「シメンタも、気にしていなかった。」という二人の様子から

どんな雰囲気伝わってくるか。次から選びなさい。

ア 気楽な雰囲気 イ 自由な雰囲気 ウ 陰湿な雰囲気 エ 真剣な雰囲気

問八 —線部⑧「僕も！」と大きな声を出してしまったときのシメンタの様子を次から選びなさい。

ア 楽しい様子 イ はずかしい様子 ウ 悔しい様子 エ 情けない様子

問九 ☐ にあてはまる言葉を文章の中から二字でぬき出しなさい。

問十 —線部⑨「だからこそ話そうよ」に込められたシメンタの気持ちを次の文にあてはまるように二十字以

内で書きなさい。

もつと話をして ()

) という気持ち。

私たちは、毎日いろいろな種類の野菜を食べています。野菜は植物ですから、根や葉、茎、花、実などの器官からできています。例えば、キャベツやレタスなら葉の部分を食べていますし、トマトやナスなら実の部分を食べています。

それでは、私たちが普段食べているダイコンの白い部分はどの器官なのでしょう。漢字で「大根」と書くくらいですから、根のように思つかもしれませんが、そんなに①単純ではありません。

それは、双葉と根、その間に伸びた胚軸とよばれる茎から成り立っています。根の部分には、種から長く伸びた主根と、主根から生えている細いひげのような側根があります。

② 私たちが食べるダイコンをよく見てみると、下のほうに細かい側根が付いていたり、側根が付いていた跡に穴が空いていたりするのがわかります。ダイコンの下のほうは主根が太ってできているのです。つまり、ダイコンの上のほうを見ると、側根がなく、すべすべしています。この上の部分は、根ではなく胚軸が太ったものです。つまり、ダイコンの白い部分は、根と胚軸の二つの器官から成っているのです。

この二つの器官は、じつは味も違っています。なま、違っているのでしょうか。

③胚軸の部分は水分が多く、甘みがあるのが特徴です。胚軸は、地下の根で吸収した水分を地上の葉などに送り、葉で作られた糖分などの栄養分を根に送る役割をしているからです。

④胚軸の部分は水分が多く、甘みがあるのが特徴です。胚軸は、地下の根で吸収した水分を地上の葉などに送り、葉で作られた糖分などの栄養分を根に送る役割をしているからです。

⑤胚軸の部分は水分が多く、甘みがあるのが特徴です。胚軸は、地下の根で吸収した水分を地上の葉などに送り、葉で作られた糖分などの栄養分を根に送る役割をしているからです。

根には、葉で作られた栄養分が豊富に運ばれてきます。④これは、いずれ花をさかせる時期に使う大切な栄養分なので、土の中の虫に食べられては困ります。そこで、虫の害から身を守るため、⑤辛み成分をたくわえているのです。ダイコンの辛み成分は、普段は細胞の中にありますが、虫にかじられて細胞が破壊されると、化学反応を起こして、辛みを発揮するよう仕組まれているのです。そのため、たくさん細胞が壊れるほど辛みが増すことになります。

これらの特徴を活用して調理すると、ダイコンのさまざまな味を引き出すことができます。例えば、大根下ろしを作るときに、辛いのが好きな人は下の部分が向いていますし、辛いのが苦手な人は上の部分を使えば辛みを少なく大根下ろしを作ることができます。また、ダイコンを力強く直線的に下ろすと、細胞が破壊されて、辛みが増します。逆に、円をえがくようにやさしく下ろせば、破壊される細胞が少なくなり、辛みが抑えられます。

このように、ダイコンの白い部分は異なる器官から成っていて、器官の働きによって味も違うのです。普段何気なく食べているダイコンも、植物として観察してみると興味深い発見があります。他の野菜はどうでしょうか。いろいろと調べてみると、これまで気づかなかった野菜の新しい魅力が見えてくるかもしれません。

問一 この文章は、序論、本論、結論の構成になっている。本論の初めの五字を書きなさい。

(句読点を含む)

問二 一線部①「単純」の対義語(反対の言葉)を答えなさい。

問三 ②に入る文と文をつなぐ言葉として適切なものを、次から選びなさい。

ア つまり

イ これに対して

ウ 例えば

エ ところで

問四 この文章のAの段落に対するBの段落の役割はどれか。次から選びなさい。

ア A段落で述べた内容の理由を説明している。

イ A段落で述べた内容を否定している。

ウ A段落で述べた内容と対比している。

エ A段落で述べた内容の理由を説明している。

問五 一線部④「これ」が指している内容を、文章中から書きぬきなさい。(句読点を含まない)

問六 辛いのが苦手な人に大根おろしを作るには、どうすればいいか。文章中の言葉を使って、二つ書きなさい。

問七 一線部⑤「辛み成分」がダイコンにたくわえられるのはなぜか。その理由になる部分を十一字で抜き出し、

初めの四字を書きなさい。(句読点を含まない)

問八 「植物の知恵」とは、どんな知恵について述べたものか。文中の言葉を使って二十字以内で書きなさい。

7

①自分ではAだと思っていたものが、人からBともいえると思われ、なるほどそうもいえると思われ

験は多いことだろう。

図1は「ルビンのつば」と題されたものである。よく見ると、この図から二種類の絵を見てとることができはすだ。白い部分を中心に見ると、優勝カッパのような形をしたつばがくつきりと浮かび上がる。このとき、黒い部分はバックにすぎない。今度は逆に、黒い部分に注目してみる。すると、向き合っている二人の顔の影絵が見えてきて、白い部分はバックになってしまふ。

この図の場合、つばを中心に見ているときは、見えているはずの二人の顔が見えなくなり、二人の顔を中心に見ると、目からつばの絵が消えてしまふ。

このようなのは、日常生活の中でもよく経験する。今、公園の池に架かっている橋の辺りに目を向けてみるとしよう。すると、橋の向こうから一人の少女がやって来る。目はその少女に引きつけられる。このとき、橋や池など周辺のは全て、単なる背景になってしまふ。カメラでいえば、あつという間に、ピントが少女に合わせられてしまふのである。ところが逆に、その橋の形が珍しく、それに注目しているときは、その上を通る人などは背景になってしまふ。

見るという働きには、思いがけない一面がある。一瞬のうちに、中心に見るものを決めたり、それを変えたりすることができるのである。図2の場合はどうであらうか。ちよつとすまして図の奥の方を向いた若い女性の絵と見る人であれば、毛皮のコートに頸をうずめたおばあさんの絵と見る人もあるだろう。あるいは、他の絵と見る人もあるかもしれない。

だれでも、ひと目見て即座に、何かの絵と見ているはずだが、そうすると、別の絵と見ることは難しい。若い女性の絵だと思つた人には、おばあさんの絵は簡単には見えてこない。おばあさんの絵と見るためには、とりあえず、今見えている若い女性の絵を意識して捨て去らなければならない。

図3を見てみよう。化粧台の前に座っている女性の絵が見えるであらう。ところがこの図も、ちよつ一つの絵をかくしもっている。目を遠ざけてみよう。すると、たちまちのうちに、この図はどくろをえがいた絵に変わつてしまふ。同じ図でも、近くから見ると遠くから見ると、全く違ふ絵として受け取られるのである。

②このことは、なにも絵に限つたことではない。遠くから見れば秀麗な富士山も、近づくにつれて、岩石の露出した荒々しい姿に変わる。また、遠くから見ればきれいなビルも、近づいて見ると、ひび割れてすけた壁面のビルだつたりする。

私たちは、ひと目見たときの印象に縛られ、③一面のみを捉えて、その物の全てを知つたように思いがちである。しかし、一つの図でも風景でも、見方によつて見えてくるものが違ふ。そこで、物を見るときには、ちよつと立ち止まつて、④他の見方を試してみればどうだろうか。中心に見るものを換えたり、見るときの距離を変えたりすれば、その物の他の面に気づき、新しい発見の驚きや喜びを味わつてくることができる。

(教科書にある「上の図」は「図1」「図2」「図3」に書き換えてあります。)

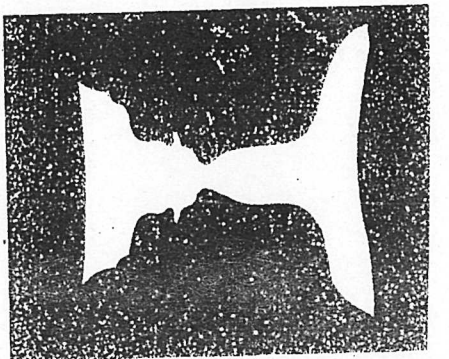


図1

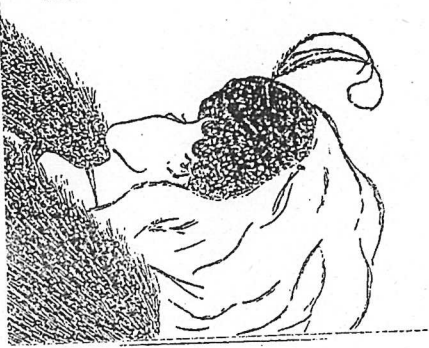


図2

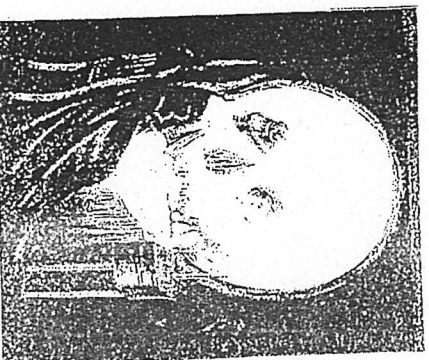


図3

問一 線部①「自分ではAだと思っていたものが、人からBともいえる」と指摘され、なるほどそうい

える」とあるが、これはどういう意味か。次から一つ選びなさい。

ア Aでない

イ Bしかない

ウ AだともBだともいえる

エ AでもBでもない

問二 図2はどんな絵に見えるか。文章中から二つ書きぬきなさい。(句読点を含まない)

問三 線部②「このことは、なにも絵に限ったことではない。」について、「この」が指している部分を文

章中から三十九字で抜き出し(句読点を含む)、初めと終わりの四字を書きなさい。(句読点を含まない)

問四 線部③「一面のみを捉えて、その物の全てを知ったように思いがち」になるのは、私たちが何に縛

られているからか。文章中から十字でぬき出さない。(句読点を含まない)

問五 この文中で述べられている筆者の考えの中心となることは何か。それをまとめた次の文の()にあて

はまる言葉を二十字以内で書きなさい。ただし、「ちよつと立ち止まって」という言葉は使わないこと。

物を見るときに、()

()みると、新しい発見の驚きや喜びを味わえる。

問六 「ちよつと立ち止まって」の文章で、筆者が読み手にわかりやく伝えるための工夫点を一つ挙げ、そ

の効果を簡潔に書きなさい。

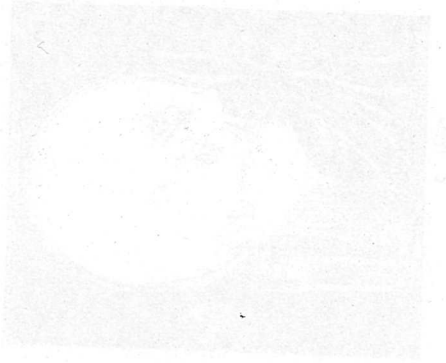


図1



図2

